

いろとりどりの春

御津北部小・6 竹内 はな乃

それでも新たに
きつとほら、
私の花が 咲いていく

また一周した この春に
天から舞ってくる いろいろな色
つかみたいが 逃げていく
新しいものは もうじきくる

その箱をあけてみると
もう卒業式

いつしか風は さわやかに

わたし
私のかみを ふわりとなでる

風は空にのぼり

花のようにふくらんで
どこか遠くへ消えて行く
まるで子どもらしさを
すてたかのように

すべての春は
花が咲けば 必ずちる